十島村教育委員会だより　令和３年９月号

さわやかトカラ情報

南北１６０㎞
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822
鹿児島市泉町１３番１３号

写真提供：平島小・中学校「大運動会」

９月・・・ＡＲＩＧＡＴＯ・ＡＬＴ

十島村教育長　有　村　孝　一

　まん延防止等重点措置が出ている中で、様子を見ていますが、県内では、新型コロナウイルス感染症予防ワクチンの効果もあり、感染者の数が減少傾向にあるようです。もちろん、ワクチン接種をしたから大丈夫というわけではありません。何回も聞いているように重症化しないというだけです。今後も、皆さん一人一人で出来る予防対策を講じながら、感染拡大につながらないように、気をつけていただきたいと思います。

　村にＡＬＴ（英語指導助手）の5人が来てから3年になります。また、諏訪之瀬島と平島に２人のＡＬＴを迎えて2年が経過しました。全島にＡＬＴを配置することができて子どもたちの英語学習が充実してきていると感じています。

　２年前の2人の赴任の時は、台風の接近や悪天候により、なかなか島に行かせる事が出来なかったことが思い出されます。その様な中、どの島でも、小・中学生はもちろんのこと島民とあいさつや楽しく会話しているＡＬＴの様子を聞きます。これも、島民の皆様が温かく迎えてくださったからこそです。心から感謝申し上げます。

　さて、ＡＬＴの派遣には期限があります。どうしても別れの時はやってきます。この７月２８日に、中之島の エリック・ジェームズ先生、９月１０日には諏訪之瀬島のテイラー・ラ・ヴァル先生が、それぞれの島を離れました。テイラー・ラ・ヴァル先生は２年間、エリック・ジェームズ先生は３年間、子どもたちにとって英語が身近な言葉になるようにと持ち前のやさしさで教えてくださいました。

　中之島でも諏訪之瀬島でも、名残惜しい別れの様子を小・中学校のブログに掲載しています。「子どもが大好きで、授業だけでなく一緒に遊んだり汗をかいて作業をしたりしていました。地域とも積極的に交流して、行事にも姿を見せていました。誰もが好きだったエリック先生。」「最後の最後まで見送りをするために、全員で港に行ってきました。一人ずつ２ショットを撮り、握手をし、テイラー先生が船に乗ってからは見えなくなるまで手を振りました。」と、２人の先生に、これまでよくしていただいたことに、心から感謝している様子が伝わってきます。お２人が次なる目標に向かって進まれ、活躍されんことを願っています。

中之島

諏訪之瀬島

　ＡＬＴの皆さんは、東京にある自治体国際化協会（通称クレア）というところから派遣されています。クレアは、ＡＬＴの他に、ＣＩＲ(国際交流員)ＳＥＡ(スポーツ国際交流員)の3つの職種の人たちを受け入れています。現在、世界40か国から約5000人が日本に来ています。本村のように小さなところに7人も派遣されるというのは、大変まれなことです。

　おかげで、全島にネイティブスピーカーによる英語学習の環境が整って、英語学習がスムーズに行われているということは、山海留学と並ぶ十島の大きな魅力の一つではないかと思います。

　新しいＡＬＴが赴任するまでは、他島のＡＬＴの協力をもらって、中之島と諏訪之瀬島の教育を行っていくことにしています。コロナ禍でなかなか赴任が難しい所もありますが、今しばらく中之島・諏訪之瀬島の皆さん方には、新しいＡＬＴの来島を待っていただきたいと思います。

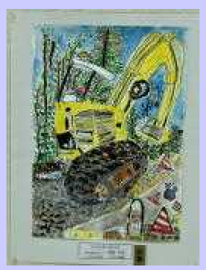
今月の「十島パワーにパチリ！」

おめでとうございます。

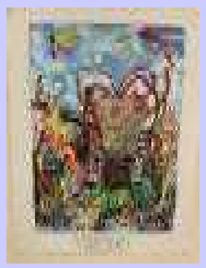
【第１４回南日本ジュニア美術展】

優秀賞	諏訪之瀬島小学校３年	①濱田　幸奈さん
入　選	諏訪之瀬島小学校４年	②山口　英知さん
	諏訪之瀬島小学校２年	③杉田　菫　さん

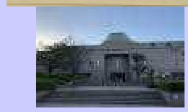
①



②



③

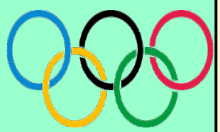


展示会場　県立美術館

詩　の　紹　介

【東京２０２０オリンピック聖火リレー鹿児島県サポートランナー】
中之島小学校６年　藤谷　萌夏

年に一度の世界の祭典
日本では二回目のスポーツの祭典
私はサポートランナーになった
体中に緊張感がはしる
さあ出番だ
ウォーターフロントに花道ができた
光栄だった　心に明かりがともった



地域が育む「かごしまの教育」県民週間
（１１月１日～１１月７日」
詳細については、来月号でお知らせいたします。

【シリーズ　新聞に投稿】

令和３年８月１日　南日本新聞「若い目」掲載
口之島中学校２年　肥後優衣花

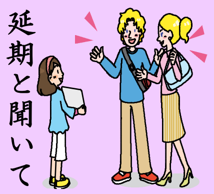
「行事の大切さを感じた」

「新型コロナが早く収まってほしい」。今、世界中の誰もが口にしている。私が住んでいる口之島も、コロナによっていろんなことが制限されている。

　毎年楽しみにしている学校行事は、昨年からほとんどが延期や中止になっている。最近でいえば、交流学習が延期になってしまった。中学校の大イベントなので、延期と聞いて悲しかった。

　口之島ならではの夕涼み会も時間短縮になってしまった。しかし、短い時間の中に、夕涼み会に協力してくださったみなさんの「子どもたちに楽しんでほしい」という思いがぎっしりとつまっていて、とてもいい思い出となった。コロナ禍で改めて行事の大切さ、人の思いの温かさを感じた。

　新型コロナで減ってしまった口之島の行事。早く収まって、来年こそはみんなでいろんなことを楽しむぞ。



令和３年８月８日　南日本新聞「若い目」掲載
宝島小学校５年　松元大樹

「平和を愛する子どもに」

　道徳の学習で、地域の方の戦時中の体験を聞く機会があった。その方は、かつて十島村村長をされた方で、十島村のことはもちろん、十島の昔のこともくわしく話してくださった。

　昭和二十年四月、当時小学六年生だったときに、宝島が空しゅうを受けたそうだ。宝島には軍の施設がある兵舎があったことと、当時の海沿いの砂浜に二十七機の軍用機が不時着したことも、空しゅうを受ける原因になったことではないか、と話された。

　宝島の集落の三分の一が空しゅうで焼けた、と聞いた僕は、大変おどろいた。今、ぼくが住んでいるこの自然豊かな宝島が空しゅうを受けている様子が、とても想像できなかった。

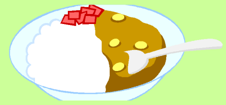
　最後に、元村長さんは「平和を願い、愛する子どもになってほしい」と話された。ぼくは戦争は体験していない。けれども、空しゅうの恐ろしさや失うものの悲しさを話の中から強く感じることができた。

子供のうた

七月二十四日　南日本新聞掲載

みんなの夜ご飯
トントントン、キャベツを切る音
ジュージュー、カレーを作る音
カレーとサラダとフルーツポンチ
わたしはサラダたんとうです
野菜をあらったり
出したりする係
水をたしたり
ルーを入れたり
ちょうせいを何度も
くりかえし
やっとカレーも完成
みんなでつくると
おいしくて
みんなで食べる幸せごはん

口之島小学校五年
松本　羽南



シリーズ・・・十島村で学ぶ

【諏訪之瀬島で学ぶ】
諏訪之瀬島中学校　3年　新納　伊織

　私は，去年中学2年生の4月に諏訪之瀬島に来ました。初めてのことがいろいろあり，あっという間に1年が過ぎました。そして今，私は3年生。学校のリーダーとしてみんなをまとめることと，高校受験のための勉強を頑張っています。しかし，私は勉強がとても苦手で苦戦しています。特に1年生の頃の勉強が不十分なため，より大変です。そこで，厚物問題集で1年生の学習内容を復習したり，先生にお願いして，土曜日の午前中わからないところや苦手なところを教えていただいたりしています。そのおかげでだんだんできるようになり，勉強が嫌でやりたくないと思っていた自分が，できるようになってきて少しずつではあるけれど楽しくなってきました。　このように受験勉強を頑張っているのですが，もう１つ大事な問題があります。それは，「どの高校に進学するか」ということです。私にはまだ，将来何になるという明確な目標が決まっておらず，興味のある高校の学科を体験してみたのですが，「自分には合っていない」と思いました。その他に考えていた高校がなかった私は困ってしまったのですが，母の勧めた高校を含め，他の高校を見たり調べたりしてみることにしました。この夏休みはいろいろな高校を見に行けるチャンスなので，しっかり見て，自分が「行きたい」と思える高校を見つけたいです。

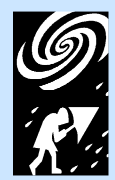
【平島小・中学校からのメッセージ】
教諭　水之浦　義弘

　平島に赴任して２年目を迎えました。今年度は中学１･２年生の担任として、１年生男子生徒４人、２年生女子生徒４人、計８人と過ごしています。

　平島に来るまでの私は、その名前から港から住宅や学校が平な土地に広がっているイメージをもっていましたが、実際は港からどんどん坂を登りつめた所に住宅があり、その奥に平島小・中学校があります。

　平島小・中学校では、「総合的な学習の時間」の中で、「筍採り」や「穴釣り」、そしてコロナ禍で昨年度行われなかった「島豆腐作り」などの体験学習があります。これらの学習や運動会や学習発表会などの学校行事は、平島の地域の方々に支えられながら行われています。

　ところで、平島に来て初めて経験したのは、台風による避難です。令和２年９月６日に、台風１０号が十島村に接近し、私と近所の２人の職員は、近くの鉄筋の施設に避難しました。夜間台風が最接近した時には、強風の聞こえる中、避難した部屋の雨戸の下方から泡の混じった雨水(海水？)が噴き出してきたことを覚えています。翌朝、台風が去り、住宅を見てみると、玄関の天井部分が吹っ飛んでいました。隣の住宅は、雨どいが９０度から１８０度（鈍角です）曲がっていました。台風の威力をまざまざと感じ、恐怖を感じることでした。天候と密接な関係がある十島村ですが，その天候と折り合いをつけながら，精一杯頑張っていきたいと考えています。



『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

　お会いする機会はなかなかありませんが、十島村で教育に携わる者として、地域と共に頑張っていきましょう。